

令和6年度(令和5年度実施事業分)主要事業評価シート						No.	3-2																																								
PDCA	主要事業名	シティプロモーション推進事業	部課名	企画部企画課	担当 内線	倉野 226																																									
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 5 - 1 - 1 単位施策： 情報共有 全体事業期間： 令和 5 年度 ～ 5 年度 全体事業費等： 5,000 千円 会計 一般会計 歳出科目： 02.01.06.10.50						目標項目（予算計上時に作成） 予算見積書で活用																																								
	事業概要等	事業概要： 本市の都市イメージや認知度の向上を図るとともに、市民のまちへの愛着や誇りの醸成を図ることにより定住人口の獲得を目指す。																																													
		事業目的： 都市イメージの向上を図るため、半田市の魅力を発信するとともに、市民の愛着の醸成を図るための施策を展開し、定住人口の獲得を目指す。																																													
		事業内容： 情報発信事業（専用サイトの運用等）、まちへの愛着を醸成するための事業（まちの魅力発見ツアー等）、ふるさと新発見事業の実施。																																													
		問題点・課題等： すぐに効果が表れる取組ではないが、行政、市民・事業者が一体となって推進できる体制を整備するとともに、長期的な視点で取組む必要がある。																																													
	予算額	主要事業とする理由																																													
	5,000 千円	市内外にまちの魅力を発信することで、市外から人を呼び込むとともに、市民に住み続けてもらうことが重要であるため。																																													
	財源内訳	得られる成果																																													
	市費 3,043 千円	市内外にまちの魅力を発信することで、市外から人を呼び込むとともに、市民のまちへの誇りや愛着を醸成し、半田市に住み続けてもらうことで定住人口の確保につながる。																																													
	国費 1,957 千円	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目標値や目指すべき状態</th> <th></th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">これからも住み続けたいと答えた市民の割合（39歳以下）</td> <td>実績値</td> <td>52.3</td> <td>43.2</td> <td>—</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>70.0</td> <td>70.0</td> <td>70.0</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2"></td> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">その他</td> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						目標値や目指すべき状態		令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位	これからも住み続けたいと答えた市民の割合（39歳以下）	実績値	52.3	43.2	—	%	目標値	70.0	70.0	70.0	%		実績値					目標値					その他	実績値					目標値					
	目標値や目指すべき状態		令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位																																									
	これからも住み続けたいと答えた市民の割合（39歳以下）	実績値	52.3	43.2	—	%																																									
		目標値	70.0	70.0	70.0	%																																									
		実績値																																													
		目標値																																													
その他	実績値																																														
	目標値																																														
0 千円																																															
その他 0 千円																																															
D 実績 得られた成果と	決算額	得られた成果																																													
	4,758 千円	市内外にまちの魅力を発信することが、市民の自分の住むまちへの誇りや愛着の醸成につながるるとともに、今後の移住定住に向けて本市のイメージ向上の一助となった。																																													
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>成果指標</th> <th></th> <th>令和5年度</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">これからも住み続けたいと答えた市民の割合（39歳以下）</td> <td>実績値</td> <td>34.5</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>70.0</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						成果指標		令和5年度	単位	これからも住み続けたいと答えた市民の割合（39歳以下）	実績値	34.5	%	目標値	70.0	%																													
	成果指標		令和5年度	単位																																											
	これからも住み続けたいと答えた市民の割合（39歳以下）	実績値	34.5	%																																											
		目標値	70.0	%																																											
C 課題の整理	事業の評価・課題	C 西三河地域を対象にした情報誌を活用した広報、若者世代（高校生・大学生）と連携した半田の魅力発信、地域資源をささえる「人」や「思い」を紹介する魅力発見ツアーを通して、市のPRと市民の愛着醸成に繋がる取組を実施した。また、0～3歳児を子育て中の親子向けに観光スポットや公園、子育て支援施設等を巡るツアーの開催することで半田で子育てするイメージを具体的に持ってもらうことができた。 一方で、成果指標の割合として、「どちらでもない」の回答が増加傾向にあり、半田市への興味・関心が低下していることから、シティプロモーションの原点に立ち返り、テレビやラジオなどマスメディアを通じたPR活動や情報発信を強化し、半田市の露出度を高め、認知度・イメージの向上を図る必要がある。																																													
A 課題の解決に向けた	今後の事業の方向性	改善推進 半田市を知ってもらう・半田市に来てもらうなど半田市と関わりのある人（交流人口）を増加させるとともに、まちへの愛着や誇りを持ったファン増やし、将来的な定住人口を獲得していく必要があるため、引き続き効果的な情報発信及び愛着醸成に繋がる取組を実施していく。 また、職員一人一人がシティプロモーションを意識し、積極的に行動していくことが重要であるため、広報事業と連携した取組や年間を通じた研修を実施し、市全体の広報・情報発信力の強化を図っていく。																																													
	観点別評価	必要性		有効性		効率性																																									
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減	ある																																								
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある	減余地	※対象・手段の変更																																								
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	—																																								